

番号	2.(2)
項目	世界的にカジノによるギャンブル依存症について報告が出されている。現在の大阪での依存症の現状について明らかにすること。また、将来において予測される「ギャンブル依存症」に関するリスクの予測と対策について予算を含めどう対策しようと考えられているのか
<p>(回答)</p> <p>大阪府が令和4年度に行った大阪府民のギャンブル等依存症に関する実態についての調査において、SOGS(※1)を用いて、過去1年間以内のギャンブル等の経験等について評価を行った結果(※2)によると、「ギャンブル等依存が疑われる者(SOGS5点以上)」の割合の推計値は18歳以上の1.9%(1.5~2.3%)(※3)、「ギャンブル等依存のリスクがある者(SOGS3点~4点)」の割合の推計値は、1.5%(1.1~1.9%)となっています。</p> <p>(※1) SOGS(The South Oaks Gambling Screen)は、アメリカのサウスオークス財団が開発した病的ギャンブラーを検出するための自記式スクリーニングテスト。ギャンブル障害に関する国内外の疫学調査で数多く採用されている。得点範囲は0点~20点で、本調査は合計5点以上の者を「ギャンブル等依存が疑われる者」とした。</p> <p>(※2) 過去1年間でギャンブル等の経験がある者のうち、SOGSの質問項目に全て回答した者を対象とした。</p> <p>(※3) 数値は年齢調整後の値。()内は95%信頼区間:同一の標本調査を100回行った場合、そのうち95回で推計値がこの範囲内となる区間を表す。</p> <p>大阪市では、2023(令和5)年度においても、ギャンブル等依存症対策に関連する予算を下記のとおり計上し、ギャンブル等依存症対策に取り組んでいます。</p> <p>なお、ギャンブル等依存症対策などカジノ施設の設置及び運営に伴う有害な影響の排除を適切に行うために必要な施策及び措置については、IR整備法に基づき区域整備計画に定め、お示ししています。</p> <p><2023(令和5)年度当初予算></p> <p>■依存症対策支援事業(51,045千円)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アルコール・薬物・ギャンブル等の依存症者に対する相談支援等の実施 ・ギャンブル等依存症に係る実態把握調査の実施 ・高校生等向けギャンブル等依存症予防啓発 ・「(仮称)大阪依存症センター」の整備に向けた検討 ・SNSによる依存症相談事業「大阪依存症ほっとライン」の実施 など 	
担当	<p>健康局 健康推進部 こころの健康センター 電話:06-6922-8520</p> <p>IR推進局 企画課 総務・企画グループ 電話:06-6210-9236</p>

番号	2.(3)
項目	<p>世界的にギャンブルによる依存症が大きな問題になっています。カジノが開催されることによるギャンブル依存症に関してのリスクについてどのように考えられるのか、また、対策についてどのように考えられているのかあきらかすること</p>
<p>(回答)</p> <p>大阪府・市と I R 事業者は、世界の先進事例に加え、大阪独自の対策をミックスした総合的かつシームレスな取組みを構築すべく、その内容を区域整備計画に取りまとめました。</p> <p>I R 事業者は、世界最高水準のカジノ規制を遵守した上で、MGM社の知見やノウハウを最大限に活かし、厳格な入場管理や 24 時間 365 日利用可能な相談体制の構築、本人・家族申告による利用制限措置など、カジノへの依存防止策を実施することとしています。</p> <p>大阪府・市は、依存症対策のワンストップ支援や普及啓発等を担う拠点として「(仮称) 大阪依存症センター」を新たに設置することをはじめ、SNS を活用した啓発や医療機関への治療プログラムの普及など、普及啓発、相談、治療、回復支援にかかる総合的な取組みを進めていきます。</p> <p>なお、I R の先進事例であるシンガポールでは、I R におけるカジノへの依存防止策とともに、予防、相談、治療、回復支援の各段階において、国をあげて依存症対策に取り組むことで、カジノのオープン前後において、ギャンブル等依存の疑われる者の割合が減っているという実績があります。</p> <p>大阪府・市としては、既存のギャンブル等を含む依存症問題に正面から取り組み、万全の対策を講じることで、ギャンブル等依存が疑われる者の割合の低減をめざしていきます。</p>	
担当	<p>I R 推進局 企画課 総務・企画グループ 電話：06-6210-9236</p> <p>健康局 健康推進部 こころの健康センター 電話：06-6922-8520</p>